

令和4年度自己評価結果公表シート

R5年3月
幼保連携型認定こども園
金城幼稚園・保育園

1、評価項目の達成および取組状況

幼保連携型認定こども園 金城幼稚園・保育園

令和3年度 学校評価の取り組み報告 ～ダイジェスト版～

【今年度の取り組み状況】

Ⅲ1回目実施



【Ⅳ保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度】
項目【2-②園の運営や教材についてどんな使い方をするのか、どのような使い方が危険か予測できるか】について課題が上がりました。園内の環境に対して理解はしているが、実際の保育の場面で危険予測が不足していることが課題にあがっていたため、園内の「危険な場所」「危険な行動」「危険につながる子どもの感情」などをグループで話し合い、保育のどのような場面で危険が潜むのかを共有しました。

まず「危険な場所」「子どもの気持ち」を過去の事故報告やヒヤリハットなどを振り返り、グループで意見を出し合い、それぞれを危険度別に振り分けました。次に、各項目（危険な場所、子どもの行動、子どもの気持ち）をかけるしでいき、危険度の比較をしました。

場所	行動	気持ち	危険度
保育室	飛びこっこをしている⑧	楽しすぎる⑩	160
⑨	複数人が同時に片付けをする⑦	落ち着いている①	14
②	ハサミを持っている⑥	気を付けようとしている④	0



これらの結果から、場所の危険度に関わらず子どもの行動と子どもの気持ちの危険度が低ければ、全体の危険度も下がることがわかりました。



＜今後に向けて＞

子どもが何かにチャレンジしようとしている場面では、保育者が危険を理解、予測しながら適切なサポートをして子どもの学びがより深まるようにしていく
子どもは危険なところが好き！チャレンジしていくことはとても大切な事なので保育者は危険がないように子どもたちの気持ちに気づき、援助していく事、集中できる環境を作っていくことが大切になってくことに気づくことができました。



Ⅲ2回目実施

【Ⅳ保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度】

夏のグループワークで「危険度」について話し合ったことをもとに自分の保育の中で実践したことや実践の中で気づいたこと、うまくいったことについて話し合いました。その話し合いを通してそれぞれの保育者の様々な視点に気づき、自らの視野を広げられるような機会とすることにしました。
自分の保育の中で実践したことや実践の中で気づいたこと、うまくいったことなどについて話し合い、この話し合いの中で子どもの危機管理能力の向上が大切だと気づきました。



子ども達の危機管理能力を上げるためには、保育者も危険を感知する気づける保育者に変われるようにすることが大切。そのために必要なのは、①共通の連携の環境 →子ども達の危機管理能力、保育者の成長につながる。
（子どもの危機管理能力とは、「気づく」「教え合う」「コントロールできる（気持ちや行動を）」「考える」「人に左右されない」等）
保育者の成長には、「危険に対する同じ感覚を持てる」「子どもとの信頼関係を築く」「判断力」等、保育者が成長すると、子どもの危機管理能力も上がっていくので保育者の気づきを伝え合っていく。

＜来年度に向けて＞「ルクミーナート」導入。

「写真」…園での様子を知ってもらうだけでなく、保育者間の話し合いや共通認識の手立てとしての利用方法を模索していく
→「危険な場面」を共通認識することで、保育者1人ひとりのスキルが高めていく
→子どもたちの「危機管理能力」「危険回避能力」を高めることへのなげっていく

学校関係者評価委員会の方からのご意見

- ・子どもによって危ないと感じる場面は異なると思う。事故をゼロにすることは難しいと思うが、小さな事故を防ぐことから大切にしていきたい。
- ・子どもはケガをするもの。大きなケガにならないかと思っている保護者は多いと思う。先生達はあまり心配しすぎず保育をして欲しい。
- ・お迎え時に、「今日、○○のことがあり、○○したので指導しました」と保育者から説明報告をいただくことがある。後で子どもに確認しても子ども自身が指導された意味などをよく理解してはいるのでありがたく思っている。
- ・先生達の会話や連携が、事故を防いでいるということがよくわかった。来年度も先生達が話し合い、連携を深められるような環境を作っていくで欲しい。
- ・園で取り組んでいることについて、保護者や地域にどのよう伝えていくか考えて取り組んで欲しい。子ども達への伝え方など学ぶことで、保護者や地域も連携して子どもを育てていけると思う
- ・子どもの事故、ケガは避けられないもの。いかに大きな事故にならないよう、リスクを減らすかを考えることが大切と思う。例えば小学生は字が読めるので、視覚化したものを提示し、ダメなことを伝えるよう工夫している。しかし、何でもダメ、ダメと言っているだけでは子ども自身で考える力を奪ってしまうので、難しい。
- ・職員間の連携のためには伝え合いが大切。ただし、全ての場面を想定して伝えることは難しい。伝えきれない、事故防止のためには先生達の連携、情報共有が大切。互いに声を出すことが大切と感じている。
- ・年2回実施している法人内研修会が、職員のワークショップに繋がっている。当園はいろんな人の考えに触れることができる良い環境がある。研修員が自分に何ができるかを考えて実践し、お互いを高め合える良い機会となっている。園の存在価値となっている。素晴らしい事である。
- ・危険にとらわれると事故防止のみを注視してしまいやすいが、今回の話し合いでは“子ども達が危険な場面からどんなことに気づいているのか”“どんな成長に繋がっているのか”と考えられており、今後には繋がるとも良いと感じた。